

## 発寒ひかり 保育園だより

2019年  
12月号

### 巻頭言

先日のクリスマス子どもお祝い会では、子どもたちの日頃の遊びや、合唱などでイエス・キリストの生誕を楽しくお祝いしました。7日の親子お祝い会を、どうぞお楽しみにも。

さて先月、ローマ教皇が長崎と広島で演説し、核兵器の廃絶と平和の実現を強く訴えましたね。「核の威嚇に頼り、平和を提案できるか」と問いかけ、核兵器の使用は犯罪であり、武器の開発はテロ行為だと糾弾しました。日本が米国の核の傘を利用し、核兵器禁止条約に反対し、武器を製造・販売（先日初めて日本で見本市を）していることを暗に批判したのでした。また、その資源を、人類の発展と自然環境の保全に使うべきだと指摘しました（裏面に新聞記事）。

この教皇の名前フランシスコは、ローマカトリックの存在した聖人の名前から取ったものです。その「聖フランシスコの平和を求め祈り」が今に伝えられています。

わたしをあなたとの平和の道具としてお使いください  
憎しみのあるところに愛を

いさかいのあるところにゆるしを

分裂のあるところに一致を（略）

闇に光を

悲しみのあるところによろこびをもたらすものとしてください

（略）わたしたちは（略）

自分を捨てて死に

永遠の命をいただくのですから

これら2人のフランシスコの言葉を深く心に刻み、今年のクリスマス親子お祝い会を迎えたいと思います。

園長 吉田 行男

# ローマ教皇 核廃絶訴え

## 長崎・広島で

### 「核の威嚇に頼り 平和提案できるか」

訪日しているローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇は24日、被爆地の長崎と広島を訪れて演説し、核兵器の廃絶を強い言葉で訴えた。「核戦争の脅威で威嚇することに頼りながら、平和を提案できるのか」と問いかけ、核保有だけでなく核抑止も否定し、米国の核の傘に入る日本を暗に批判した。米ロの中距離核戦力（INF）全廃条約の崩壊など、核軍縮の後退を懸念し、被爆の記憶継承と団結を世界に呼びかけた。

▼2面―踏み込む教皇、6面―社説、27面―被爆者らは



核兵器についてのメッセージを述べるフランシスコ教皇＝24日午前、長崎市の爆心地公園、代表撮影

#### フランシスコ教皇が出したメッセージのポイント

- ・相互不信が対話を阻み、世界は分裂の中にある＝長崎
- ・軍備拡張競争は貴重な資源の無駄遣いだ＝長崎
- ・核兵器は、安全保障への脅威から私たちを守ってくれるものではない＝長崎
- ・核兵器の使用も所有も倫理に反する＝広島
- ・世界は相互に結ばれており、共通の未来のために、それぞれが排他的利益を後回しにすることが求められる＝広島

教皇は同日午前、大雨のなか長崎市の爆心地公園を訪れ、「核兵器に関するメッセージ」を発表。午後には広島市の平和記念公園で「平和のための集い」に出席し、平和を願って演説した。教皇の長崎・広島訪問は、冷戦下だった1981年の故ヨハネ・パウロ2世以来、38年ぶり。

フランシスコ教皇は二つの演説で、被爆地を「人間が過ちを犯しうる存在だ」とも述べた。

#### 「武器開発 テロ行為」

意識させてくれる」などと表現。被爆の記憶を継承することの大切さを訴えた。広島では、核兵器について、「戦争のために原子力を使用することは、犯罪以外の何ものでもない」「使用も所有も倫理に反する」などと非難。長崎では各国の政治指導者に向け、「核兵器は安全保障への脅威から守ってくれるものではない、そう心に刻んでください」と求めた。

また、軍拡競争が続く世界の現状を激しい言葉で批判した。長崎では、武器開発について「テロ行為だ」と糾弾した。そのうえで、「軍備拡張競争は貴重な資源の無駄遣いです。（資源は）人類全体の発展と自然環境の保全に使われるべきものです」と指摘した。

教皇はさらに、二つの演説で、核軍縮をめぐる停滞する国際社会の動きに対し、深い懸念を表明した。長崎では「兵器使用を制限する国際的な枠組みが崩壊する危険がある」「多国間主義の衰退を目の当たりにしている」などと指摘。日本政府が署名していない「核兵器禁止条約」にも言及し、教会として「核軍縮と核不拡散に向け、迅速に行動し、訴えていく」と日本政府に行動を促していく決意を述べた。

広島での演説では、核廃絶に向けた行動がなければ、「次の世代の人々が私たちの失態を裁く裁判官として立ち上がるでしょう」と

「核兵器禁止条約」に署名し、核軍縮と核不拡散に向け、迅速に行動し、訴えていく決意を述べた。

（ロウ）を「核兵器の廃絶を強く訴えた」と述べた。（河野田）